

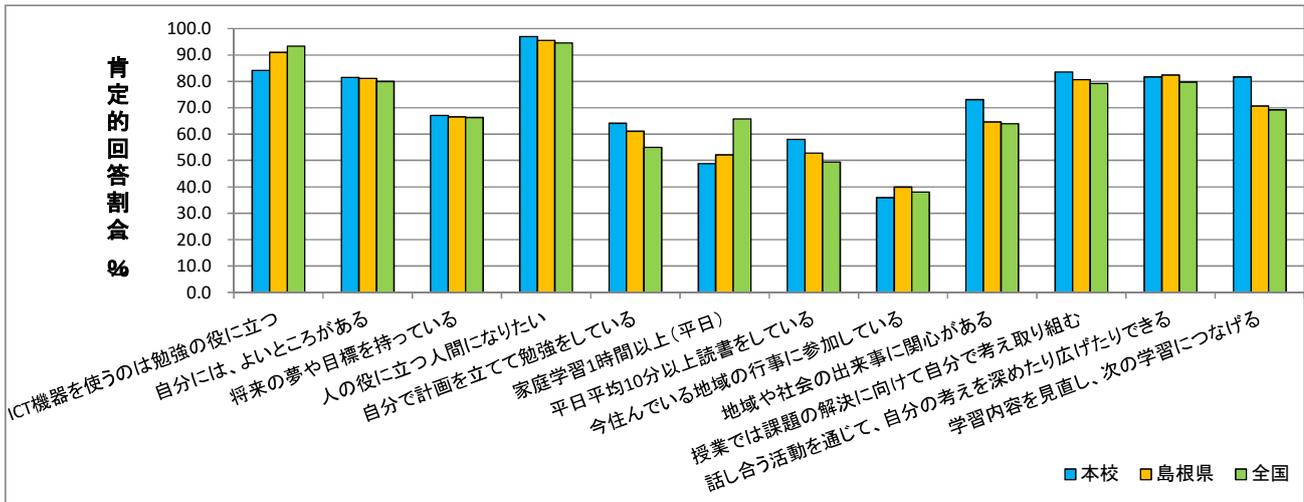
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○概ね正答率が7割を超えており、漢字練習や歴史的仮名遣い、意味調べなど言語学習の成果が出ていると思われる。 ●記述式の問題、書くこと、読むことの一部で正答率が低く、無回答率が高いものがある。初見の文章や長い文章に抵抗感があることが原因として考えられる。	・物語や説明文などの長い文章を学習する際は、順序立てて丁寧に文章を読みとる活動を取り入れる。 ・幅広い読書活動の推進を図る学習を考案する。
数学	○それぞれの分野で高い正答率であった。毎回実施している小テストの成果で理解が定着しつつある。 ●数学の専門用語を正しく理解し、数学的に表現することが苦手。	・普段の授業のときから数学的表現力を専門用語を使い説明する機会を増やす。 ・小テストを続け、総合的な数学力の定着に努める。
英語	○書くことについて、正答率は低いものの、県、全国の平均をどちらも上回っているという点については、普段の単語テストや作文活動などの成果が表れていると考えられる。 ●聞くことと読むことには課題がある。	・聞くことへの対策はCD等によるリスニングを多く経験することや、音と音のつながりの指導を通して、発音からの定着を目指す必要がある。 ・読むことへの対策は、スピードと要点をつかむことを意識した指導が必要である。

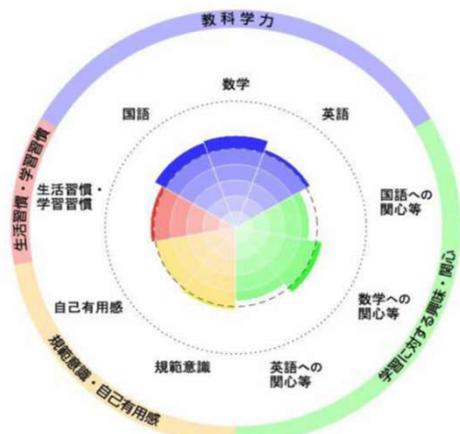
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○人の役に立つ人になりたい、計画を立て勉強しているなど、前向きな気持ちを持って学習に取り組んでいる生徒が多い。 ○読書の時間も県、全国の平均より長い。 ●家庭学習の時間は県、全国の平均を下回り、実際の行動に移せていないことがうかがえる。	・授業と家庭学習を関わらせた指導の工夫を検討する。 ・自分の将来についてのことの気持ちを高めるために、キャリアパスポートなどを活用した学習の場を工夫する。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・ICT機器を効果的に活用した授業づくりの工夫に努める。  
・地域や社会への関心が高い反面、行事への参加が低い。総合的な学習の時間等によるふるさと教育、キャリア教育の関連を図った取組の工夫を検討する。

【受検者数】

164 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。